『もりおかの短歌』

冬の部　優秀賞十首

盛岡の人の優しさ見るごとく
雪あかりの灯
ほのかに揺れる

盛岡市　中島　久光

擬宝珠の橋を渡りて初参り
凍れる朝の
息の白さよ

盛岡市　堀米　公子

ユーカラの本手に取りて
金田一博士思えり
雪の降る朝

盛岡市　西川　政勝

上の橋の擬宝珠の上にも
雪は積み初日を受けて
街明るみぬ

盛岡市　石川　修子

神子田にて
しんしんと降りつむ雪に
あの日の二人をまぼろしに見る

宮城県亘理町　福田　佳昭

銀座ではまだ枯れざるに
啄木の家の柳の
一斉に散る

東京都国分寺市　守屋　明俊

岩手嶺に真向ひをれば啄木の
声風に乗り
聴こえて来たる

青森県八戸市　鈴木　リヨ

中津川（なかつがわ）
水面（みなも）に映（うつ）る電飾（でんしょく）も
聖（せい）なる夜（よる）を待（ま）ちわびている
岩手県矢巾町　小野寺　一洋

啄木（たくぼく）の歌碑（かひ）に
降（ふ）る雪見上（ゆきみあ）げいる
我（われ）も一人（ひとり）の友人（ゆうじん）として
秋田県大仙市　鈴木　仁

凍晴（いてばれ）に凛（りん）と聳（そび）ゆる岩手山（いわてさん）
身（み）を引（ひ）き締（し）めて
手（て）を合（あ）わせたり
千葉県印西市　宮本　るり子

ジュニア部門　優秀賞三首

該当なし

〔講評〕

冬の部を担当するのは初めてですが、心のこもった作品が多く寄せられ嬉しく思います。小学生や幼児の作品もあり、入選とはなりませんでしたが、心豊かなものばかりでした。岩手や盛岡、そして啄木に対する思いの深さがどの歌にも表されていて感心いたしました。

平成三十一年三月選　冬の部

投稿数　百九首

選者　山本　豊

『もりおかの短歌』冬の部

〈一般部門〉優秀賞十首

鴨(かも)たちの
会話(かいわ)も白(しろ)い息(いき)だねと
中津川沿(なかつがわぞ)い通学(つうがく)の朝(あさ)

秋田県大仙市　鈴木　仁

寒(さむ)い朝(あさ)
青龍水(せいりゅうすい)の清水汲(しみずく)み
お茶(ちゃ)を煎(せん)じて命(いのち) 潤(うるお)す

盛岡市　西川　政勝

生(い)きづらく
あれども勝(まさ)る優(やさ)しさと
親切(しんせつ)に触(ふ)れ良(よ)い一日(いちにち)に

愛知県丹羽郡　清水　将一

稜線（りょうせん）の
くっきり見（み）ゆる岩手山（いわてさん）
その麗（うるは）しき姿（すがたほこ）誇りぬ

青森県青森市　鈴木　操

硬質（こうしつ）の寒（さむ）さの似合（にあ）ふ
盛岡（もりおか）に凍（い）て道滑（みちすべ）るも
はしゃぎて子（こ）らは

盛岡市　工藤　由美子

優（やさ）し気（げ）な模様（もよう）は映（は）えて
職人（しょくにん）の自負（じふ）が漂（ただよ）う
南部鉄瓶（なんぶてつびん）

盛岡市　河野　康夫

名水（めいすい）の
冬温（ふゆあたた）かく湧（わ）く水を
若水（わかみず）として新年祝（しんねんいわ）う

盛岡市　堀米　公子

姫神(ひめかみ)の尖(とんが)りお山冬来(やまふゆく)れば
白(しろ)いピラミッド
聳(そび)えるごとし

盛岡市　小林　貴史

年(とし)あけて
胸高(むねたかな)鳴りぬ初個展(はつこてん)
旧友(とも)かけつけて記帳(きちょう)するなり

盛岡市　赤坂　昌信

雪抱(ゆきいだ)き
ひときわ高(たか)し岩手山(いわてさん)
旅(たび)ゆく私(わたし)を見守(みまも)る如(ごと)く

栃木県佐野市　小林　トシ子

冬の部〈ジュニア部門〉優秀賞

該当なし

【講評】
一般部門

盛岡の冬を上手く捉え、詠まれた歌が多かったと思います。冬は雪を素材に詠うことも多いのですが、よく見れば歌の素材は様々あります。視点は個性となって現れます。自分にしか見えないところを見つめることが大切です。

令和二年三月選　冬の部
投稿数　八十一首
選者　赤澤　篤司

『もりおかの短歌』冬の部

一般部門　優秀賞十首

友と呑み
昔話で酔いまわる
八幡裏の暖簾の奥で

盛岡市　赤坂　昌信

リハビリの
散歩も少しづつ慣れて
白鳥うたう高松の池

秋田県大仙市　鈴木　仁

威勢よき訛りの声に
旬を買い元気も貰う
神子田朝市

盛岡市　河野　康夫

本州一寒い藪川（ほんしゅういちさむ　やぶがわ）
冬の日にそば屋に寄りて（ふゆ　ひ　や　よ）
熱い蕎麦食う（あつ　そば　く）

盛岡市　小林　貴史

湯の滾る音も友なり（ゆ　たぎ　おと　とも）
独り棲み（ひと　す）
南部鉄瓶撫づりて生きる（なんぶてつびんな　い）

青森県青森市　鈴木　操

矢絣と袴ですべるスキーには（やがすり　はかま）
一本の竹（いっぽん　たけ）
明治を伝えし（めいじ　つた）

盛岡市　堀米　公子

綿雪の開運橋に点る灯に（わたゆき　かいうんばし　とも　ひ）
御伽幌馬車（おとぎほろばしゃ）
渡り観るよな（わた　み）

釜石市　中嶋　多喜子

コロナ禍(か)で孫達(まごたち)はもう盛岡(もりおか)に
来(こ)れぬと知(し)って
そぞろ歩(ある)きす

盛岡市　中島　久光

しとねもの
クルミにあずき　ごまにみそ

盛岡市　新里　秀明

昔変(むかしか)わらぬ　ふるさとの味(あじ)

おでんせの響(ひび)き温(ぬく)しや

盛岡市　新里　秀明

郷訛(さとなま)り
妣(はは)に似(に)ていし姉(あね)さん被(かぶ)り

宮城県多賀城市　小松　隆夫

冬の部〈ジュニア部門〉　優秀賞

該当なし

【講評】

一般部門

それぞれの冬。今を生きる吐息が歌となって溢れ落ちたのだろう。コロナ禍と言われる時代も長い人生を振り返ってみればほんの一瞬の出来事なのかもしれない。それはまるで開運橋に点（とも）る灯に過ぎて行った御伽（おとぎ）幌馬車のように。

令和三年三月選　冬の部

投稿数　七十一　首

選者　山本　玲子

『もりおかの短歌』冬の部

一般部門　優秀賞十首

もりおかの石割桜（いしわりざくら）
真っ白き雪の華（ゆき　はな）つけ
遠き春待つ（とお　はるま）

盛岡市　鈴木　充

萌え初（そ）めし通（とお）りの空（そら）の大柳（おおやなぎ）
誘（さそ）われ来（く）れば
啄木（たくぼく）の家（いえ）

盛岡市　佐藤　忠行

年尾（としお）の忌（き）
迎（むか）へるたびに想（おも）ひ出（だ）す
盛岡去（もりおかさ）りし七年前（ななとせまへ）を

青森県青森市　鈴木　操

モノクロの景色（けしき）の中（なか）の
つらら越（ご）し
道（みち）ゆく人（ひと）の眼鏡（めがね）も曇（くも）る

盛岡市　赤坂　昌信

雪掻（ゆきか）きで始（はじ）まる朝（あさ）を
運命（うんめい）と思（おも）ひて
しばし冷気吸（れいきす）い込（こ）む

盛岡市　中島　久光

積（つ）む雪（ゆき）の下（した）で芽吹（めぶ）く日（ひ）
待（ま）つ樹々（きぎ）にやさしき陽（ひ）ざし
盛岡（もりおか）に来（き）て

千葉県鎌ケ谷市　山本　咲江

中津川（なかつがわ）
一晩（ひとばん）の雪（ゆき）ふっくらと
小（こ）ガモの朝餉（あさげ）を見守（みまも）るように

盛岡市　郷家　美磨

初めてのさんさ踊りに
魅了され
夢中で手拍子二歳の娘

岐阜県可児市　有田　峻

盛岡のしばれる街を
北上川の流れは強く
住む人強し

盛岡市　小林　貴史

白鳥渡り秀峰ま白にズームイン
厳しき冬は
街を包みぬ

盛岡市　堀米　公子

冬の部〈ジュニア部門〉　優秀賞

該当なし

【講評】
一般部門

コロナ禍もワクチン接種がゆきわたり、平穏な日常に戻ることを疑わずにいたけれど、何かスッキリしない。人々の行動も消極にならざるをえない現実に心が塞ぐ。このたび皆様から届いた作品は６５首と過去に例がない程の少なさ。ジュニア部門は１首もなく寂しい現実に直面した。北に帰る白鳥の群れを送りながら春の近いことを実感する。禍事のない春よ来い!!

令和四年三月選　冬の部

投稿数　六十五首

選者　松田　久恵

『もりおかの短歌』冬の部

一般部門　優秀賞十首

はあはあと吐く息荒い（いきあら）

雪（ゆき）はらい

眼鏡（めがね）はくもりマスクも凍（こお）る

盛岡市　赤坂　昌信

雪積（ゆきつも）る枝（えだ）に

小（ちい）さき蕾（つぼみ）もつ

石割桜（いしわりざくら）よ春（はる）にまた見（み）ん

千葉県浦安市　岩田　一

雪（ゆき）しろき岩手山嶺（いわてさんれい）

照（て）りかへり山襞（やまひだ）かげり

夕暮（ゆうぐ）れんとす

奥州市　遠藤　カオル

御所(ごしょ)ダムの水面(みなも)は
冬(ふゆ)の山々(やまやま)を映(うつ)して
とても永遠(えいえん)だった

北海道札幌市　小野寺　弘泰

時超(ときこ)えて
希望与(きぼうあた)えしＳＬ(えすえる)の
光輝(ひかりかがや)く冬(ふゆ)の盛岡(もりおか)

盛岡市　川村　佳子

しらじらと明(あ)けくる空(そら)に岩手山(いわてさん)
雪(ゆき)に耀(かがよ)う
姿(すがた)あらわす

盛岡市　櫻井　知意子

大雪(おおゆき)のあとは青空(あおぞら)広(ひろ)がりて
運命(さだめ)と思(おも)ひ
雪掻(ゆきか)きをする

盛岡市　中島　久光

原敬(はらけい)の産湯(うぶゆ)の水(みず)を汲(く)んだ井戸(いど)
静(しず)かにたたずむ
雪積(ゆきつ)もる庭(にわ)に

盛岡市　西川　政勝

啄木(たくぼく)の詩(し)に古賀(こが)メロディー響(ひび)きたり
時報(じほう)鳴(な)る街(まち)
雪(ゆき)は降(ふ)り積(つ)む

盛岡市　堀米　公子

純白(じゅんぱく)の朝(あさ)の光(ひか)りに誘(さそ)われて
今朝(けさ)も足向(あしむ)く
不来方(こずかた)の城(しろ)

盛岡市　渡邊　定夫

冬の部〈ジュニア部門〉　優秀賞

（応募時、中学生以下に限る）

スキー場（じょう）すべってみると
なめらかで雪（ゆき）がまるで
そば粉（こ）のようだ

東京都立川市　河田　心（十一歳）

手（て）のひらの
光る結晶（けっしょうすがたか）　姿　変え

東京都渋谷区　小久保　晴（十二歳）

御所湖（ごしょこ）の光（ひかり）　つなぎたる雪（ゆき）

【講評】

一般部門・ジュニア部門

ニューヨーク・タイムズが発表した「２０２３年に行くべき５２か所」に、盛岡市がロンドンに次いで２番目に紹介され話題となっています。灯台もと暗し、という諺がありますが、今回の件はまさにそれを表した出来ごとです。短歌の素材も、これまで詠まれた以外にもまだまだ多くあると思います。「冬の部」に応募していただいた歌は、素材としては目新しいものはありませんが、作者の身に引き付けた歌が多く好感を持ちました。

令和五年三月選　冬の部

投稿数　七十二　首

選者　山本　豊

『もりおかの短歌』冬の部

〈一般部門〉　優秀賞十首

文学(ぶんがく)の香(かお)りを
君(きみ)は身(み)に纏(まと)ひ
毘沙門橋(びしゃもんばし)の風花(かざはな)を詠(よ)む

青森県弘前市　井上　裕太

冬(ふゆ)の田(た)に
飯岡山(いいおかやま)は囲(かこ)まれて
どっしり鎮座(ちんざ)す雪(ゆき)に覆(おお)われ

盛岡市　岩舘　公子

追憶(ついおく)に耽(ふけ)る窓辺(まどべ)や
不来方(こずかた)の城址(じょうし)眺(なが)める
冬(ふゆ)の病室(びょうしつ)

青森県青森市　加藤　健一郎

濃紺の冬空凍る雪の街
ホットワインに
星が流れる

神奈川県横浜市　北見　美保

選ばれし行きたい街の盛岡に
風情を醸す
赤レンガ館

盛岡市　河野　康夫

鷲形の現はるる日を待ち兼ねて
既に求めし
向日葵の種

青森県青森市　鈴木　操

本州で一番寒い盛岡に
マフラー手に持ち
劇場を出る

神奈川県藤沢市　長坂　珠美

公園(こうえん)の羅漢如来(らかんにょらい)の
祈(いの)る手(て)に
飯盛(めしも)るごとく雪降(ゆきふ)り積(つ)もる

盛岡市　西川　政勝

年(とし)の瀬(せ)の
神子田朝市人盛(みこだあさいちひとざか)り
売(う)り買(か)いの声温(こえぬく)もり染(し)みる

盛岡市　三澤　信裕

あの人(ひと)の憧(あこが)れ抱(いだ)き思(おも)い出(で)の
啄木追(たくぼくおい)し
盛岡(もりおか)の町(まち)

山口県周南市　山根　洋子

『もりおかの短歌』冬の部

〈ジュニア部門〉　優秀賞

（応募時、中学生以下に限る）

該当なし

【講評】

選歌葉書を見ると「冬の部」は、ほとんどが雪や寒さや春待つ心が詠まれている。冬の光景は短歌の素材になる詩情があるのだ。季節にはそれなりの素材があると思うが、冬は特別かも知れない。春を待つ心は詩人を作る。誰にでも可能性があるのだ。逆に夏を詠むのは難しいかも知れない。旅行先を盛岡にされた方々は記憶に遺るだろうが、短歌を作ることも思い出になるだろう。誰にでも詩人の素質はあるのだ。一歩踏み出していただいたことが、私はとてもうれしく思われてならない。

令和六年三月選　冬の部

投稿数　七十三　首

選者　赤澤　篤司